

2018年度 日本陸上競技連盟 競技運営委員会 全国競技運営責任者会議

平成31年2月9日(土)、10日(日) 味の素ナショナルトレーニングセンター

第1日(2月9日)

開会あいさつ

尾縣 貢 専務理事

・東京オリンピックまで1年半となった。この1年間が一番大切な時期となる。すべての選手がオリンピック、パラリンピックに参加して良かったと思う接し方をしていただきたい。日本らしい運営をおこなっていただきたい。そのためにもこの一年間を大切にしていきたい。

事務連絡

関 隆史 幹事

・資料・英語版ルールブック販売について、短冊の配布について、青山商事のデスク設置について。

公認審判用ウェアについて 青山商事株式会社

・公認審判員の1200名以上のウェアをこれまで購入いただいている。本年度も全国で購入できる体制を整えている。

競技会実施報告(諸問題発生事例)

・基本的には配布資料の確認であったが、各主催陸協より特記事項について、説明があった。

国際競技会・講習会報告

U20世界陸上競技選手権大会 緒方 信也 委員

鍋島 太一 委員

・今回の大会は、7月8日～13日の派遣で、フィンランドのタンペレにおいて開催された。

・今回は競技役員として参加する派遣ではなかったため、スタンドから運営方法等の視察をした。

競技役員体制について、サブトラックについて、PECRについて、資料をもとに説明。

・日本の大会運営は丁寧で細かく、日本の良さに改めて気付くことができた。

ITO (Area Level II) 講習・試験報告

関根 春幸 副委員長

・レベル2の試験は、レベル1とは違い、ルールブックに載っていないような判断をすることが求められた。プレゼンテーションの問題は1問、口頭試験は4問のうちの3問を選ぶものだった。

・マレーシアには6人ほどITOがあり、日本はまだそのレベルに達していない。今後、さらに審判員の養成に取り組んでいきたい。

IRWJ (Area Level) 講習・試験報告

山田 英生 JRWJ

・レベル2は、エリアレベル(アジア)で歩形の判定ができるもので、今回、日本から2人参加した。

・筆記試験は選択問題と記述問題の両方があり、難易度に差が見られた。ビデオによる判定試験については、日本ではJISSのシステムで見られるものがあるので、役に立った。

・日本として、IRWJの枠を確保しておくことが重

要であり、そのためには、今後も情報収集が大切であると感じている。

施設用器具委員会報告

高沼 正利 施設用器具副委員長

・施設用器具委員会副委員長の高沼氏より資料に沿って説明。

・写真判定機のカメラの設置は強固なもので固定することを明文化した。

2019年度競技規則修正提案

片岡 裕介 委員

<IAAF 関連競技規則修正>

・大きな修正はなし。主には3点のみ。

<国内規則修正>

・選手が重篤な状況に陥った場合の対応、投てきの囲い、道路競技、確認テストについて。

競技会における広告および展示物に関する規程修正案

杉本 太郎 委員

・大きく変更があったのは、スポンサーの欄に「スポンサー ナショナル」というものが新たに加わった。

・国のスポンサーのロゴや名前を衣類につける際は、IAAFと競技会のスポンサーに競合しないことを条件に、IAAFの承認を得ることが条件となった。特にロードレースのゴールドラベルについて、これを遵守しないと、ラベルを剥奪されることもあるので、ラベリング大会を主催する団体はご注意ください。

スタートチームの基本動作の一部変更と不適切行為への対応について

青柳 智之 委員

・「On your marks」コマンド以降の動きについて、両足がスターティングブロックと接触しているか、出発係が確実に確認することを所作として追加したい。具体的には、2名が4・5レーンの後ろに立ち、ブロックを確認しながら外に移動、前にいる出発係が手の動き確認、出発という流れとなる。

・不正スタートの告知について、現在は出発係が口頭で確認し、カードを提示しているが、それをスターターが口頭で説明し、出発係がカードを提示する。

NTO 研修状況報告

中島 剛 委員

・NTO試験の進捗状況について説明。

・2019年度については、4大会での実施を計画している。ワールドリレー、セイコーゴールデングランプリ、日本選手権、U20/U18日本選手権の4大会。・2019年度の研修にご参加いただく。

審判ハンドブック2019-2020年版編集報告

黒澤 達郎 委員

・2年に1度の編集であり、2018, 2019年度規則修正に対応させ、内容は大きく変わっていないが、ほとんどの章、項目で修正・加筆を行い、読みやすくわかりやすい編集を行った。

国際ランキングシステムについて

平野 了 事務局強化育成課長

・IAAFが2017年11月に発表。目的は、あらゆるステークスホルダーに対してわかりやすく、魅力ある陸上を提供するため、選手のパフォーマンスの明確な一定基準での相対値の算出するため、大会のヒエラルキーを明確化するため、エリアで実施されている大会の価値を向上させるため、記録の信憑性を担保するためである。選手のためにも記録の申請にご協力いただきたい。

質疑応答

Q (大阪：川崎) リレーの次走者の立ち位置について、競技会のレベルによっては立ち位置を説明しなければならないが？

A (片岡裕) あくまでも運用については競技会レベルで判断していただきたい。あくまでもルールはこうであるという説明をしてほしい。

事務連絡 関 隆史 幹事

・明日の受付時間、冊子販売、会場使用について。

第2日(2月10日)(分科会A)

あいさつ 関根 春幸 副委員長

・競技会運営がワールドワイドに広がっているの、しっかり聞いていただいて持ち帰ってほしい。

公認競技会開催申請 鍋島 太一 委員

・2018年申請における諸問題、2019年申請における変更点・注意点。

公認記録申請・日本記録について

岩脇 充司 委員

・日本記録について、代表決定戦の扱い公認記録の申請について。

記録の公認申請について 分室 高橋 克己

・競技会の変更と中止の使い分け、記録の公認申請状況について説明。

ランキングシステムへの対応およびご協力をお願い

井上 博行 委員

・ランキングポイント対応申請の手順、開催前の情報、名前の英語表記について。

広告展示物規程の徹底方法について

杉本 太郎 委員

・(IAAF) ロードレースラベル取得大会における選手ユニフォームに関する規則について、広告規程の順守について、ルールブック P408 に関して、説明。

(分科会B)

公認審判員昇格審査結果 町田 紀子 幹事

・1月19日に実施、昨年度までは委嘱状と手帳を

配布していたが、今年度より委嘱状とバッジを配布する。

公認審判員制度の改定案・公認審判員規程の改定について

鈴木 一弘 委員長

・S級昇格年を引き下げ、C級審判員の創設について説明。

(公認審判員既定の改訂について)

・倫理規定が9月に定められた。登録会員処分規程も定められ、処分について記載されており、不服申し立て委員会規程まで作られている。ホームページの「陸連について」に各種規定が掲載されている。

① 競技会運営に関する共有事項について

赤峰 俊彦 幹事

・規則に則った施設の設置について、競技会における助力について、ロード競技の安全対策について、会場との意見交換を行った。

(全体会)

分科会報告 関根 春幸・岩崎 義治 副委員長

・それぞれの分科会での決定事項、分科会の概要を発表。

オリンピック・パラリンピック準備状況/WRについて

鈴木 一弘 委員長

・WRの概要、オリンピック・パラリンピック進捗状況について、競技ボランティアについて、テストイベントについて、説明。

全国的競技会における報道対応と PECC

田中 康之 委員

・10年くらい前から報道対応に関して配慮が見られるようになってきた。今後は、より良い報道対応とともに、PEC、ミックスゾーンから表彰までの形をつくっていききたいのでご協力をお願いします。

全体質疑応答

Q (長野：横打) 小学生大会について、種目変更が進められているが、何か情報があるのか？

A (鈴木委員長) 大会に間に合わせて作ると聞いているが、それ以上の情報についてはない。

コメンテーターより 吉儀 宏 特別委員

・どんなに周到な準備をしても、「人は必ずミスをする、機械は必ず故障する。」ということを認識していただきたい。

・陸連からもIAAFにルールの問題点について、長く意見を言って認められたケースがある。全国からも、色々なルール改正の要望を挙げてほしい。

事務連絡 関 隆史 幹事

・冊子販売、昼食、名札、会場使用について。

閉会あいさつ 鈴木 一弘 委員長

・跳躍競技のタイマーの始動について、主審の旗振りではなく、走路に置いたコーンが取り除かれた場面から行うといった方式を昨年提案したが、採用していただいた県ではうまくいったようである。